

# かがやく

— あなたも、わたしも —



案内板

男女共同参画宣言都市奨励事業

## あびこ男女共同参画 フェスタ 2002

平成 14年 11月 30日(土) 会場 アビスタ  
(我孫子市生涯学習センター)

- 第1部 式典・記念講演 若桑みどりさん(川村学園女子大学 教授)
- 第2部 あなたらしく わたしらしく～我孫子市が進める男女平等教育～
- 第3部 市民団体等による発表・展示

主催 男女共同参画推進本部・内閣府・我孫子市  
共催 我孫子市男女共同参画社会づくり推進懇談会・我孫子市男女共同参画宣言都市記念事業企画運営委員会



**特集** 女と男は平等です

**連載** かがやく個性たち

お父さんのお迎えうれしいな



日本の社会は、いままで性別で役割が決まっていたけれど、最近の若い人たちは家事も育児も一緒にやっている人が多くなったね。

でも、日常生活の中で、まだまだ女性だけがやって当たり前と思われていることが多いのではないのかしら。

## オレにも言わせろ!

おじさん：女の仕事を男に押しつける気か？  
 参画マン：いえいえ、男が抱え込んでいる仕事を女性にも開放するんです。  
 おじさん：そうじ洗濯に飯炊きしろというのか？  
 参画マン：ひとり暮らしならみんな自分でしますよね。どう分担するのは、家族ごとに違っていいはず。定年になってから始めなくてもいいんですよ。  
 おじさん：なんだか、われわれ中高年ばかりがワリを食っている気がするなあ。  
 参画マン：そうでしょうか？ 社会に出れば女性だって能力と責任を求められます。男性だって会社人間から家庭や地域においても責任ある人間となるんです。決まった役割に押し回されて、依存しあう関係ではなく、男女互いに自分の希望をかなえ、能力を発揮しつつ協力するのが、男女共同参画社会なんです。

おじさん：ジェンダー（社会的文化的性差）、ジェンダーって言うけど、男と女は違うって当然なんだ！  
 参画マン：そうですね。男と女は生物学的に違いますね。  
 おじさん：じゃ、男は男、女は女の役割があつて当然だろ。  
 参画マン：それをジェンダーバイアス（性別により役割を決めつけたりすること）というのでは？  
 おじさん：伝統をばかにしちゃいかん。長い時間かけて世の中がうまくいくようにできたものだ。  
 参画マン：否定はしませんが、伝統だから正しいのでしょうか？ 状況が変われば、役割分担も変化して当然ではないですか？  
 おじさん：女の仕事を男に押しつける気か？  
 参画マン：いえいえ、男が抱え込んでいる仕事を女性にも開放するんです。  
 おじさん：そうじ洗濯に飯炊きしろというのか？  
 参画マン：ひとり暮らしならみんな自分でしますよね。どう分担するのは、家族ごとに違っていいはず。定年になってから始めなくてもいいんですよ。



# 女と男は平等です

私たちの日常生活は「男はこう、女はこう」という意識や慣習で、性別によって役割を決めていることが多くあります。今回のかがやくは、これらのことを夫婦の会話を通して探ってみました。みなさんはどうお考えですか？

### 子育ては

- ① 子育ては父母両方に責任があると思うけど。
- ② それは当たり前だ。だけど実際には全く同じというわけにはいかない。男には仕事がある。それに、なんといっても子どもを産めるのは女だけなんだから、子育ては女の特権だよ。
- ③ 確かに“産む”ことは女しかできないけど、子どもには二人でかかわることが大事なことです。だって子どもはお父さんと遊ぶのが大好きでしょ。あなたが参加してくれていたら、もう少し時間も気持ちもゆとりをもって子育てができたと思う。
- ④ 子どもは父親と母親、両方の姿を見て育つということだね。でも、父親としては帰りも遅いし、したくてもできない。今のような働き方では難しいなあ。父親だって子どもと一緒にいたいよ…。

### 職業を持つということは

- ① 妻だって、職業を持っていれば、残業も出張もあるけど、それはどうかしら？
- ② だって家庭があるんだよ。残業のない部署にしてもらえばいいじゃないか。
- ③ 女も男も職業に対しては同じく責任を持つよ。育児にしても介護にしても、家庭になにかあった時

女性が仕事を犠牲にすることが多い。そんなのおかしいと思う。

- ① どちらかがガマンしなきゃ家庭は維持できない。
- ② それが一方向に偏るのはおかしいと思うの。育児や介護はとて一人だけでは無理よ、家族で助け合わないと。それに介護や育児をしても仕事を続けたいと考えるのは私だけかしら。

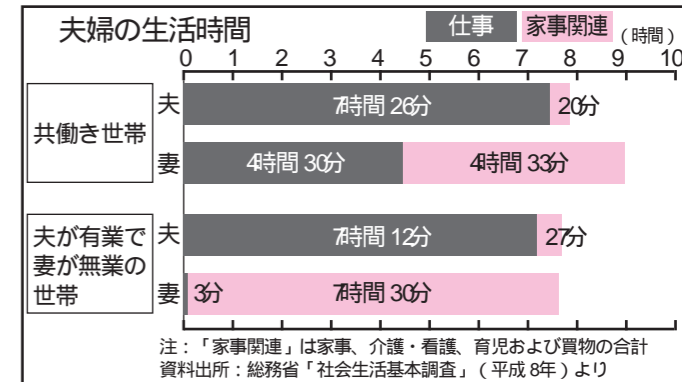
### 地域では

- ① 子ども会や自治会など地域のことは、まだまだ女が中心になってやっているところが多いね。
- ② 実際の仕事は女がやっているのにも関わらず、町会長やPTA会長など“長”は男が多いのは問題かもな。
- ③ 地域のことに“長”だけでなく大いに参加してほしいものね。最近は、ユニークな地域活動をしている男性のグループも出てきたし。

### 男も女も 家庭も仕事も

- ① 結婚後の財産は夫婦二人で築き上げたものね。
- ② 会社で、汗水たらして働いたのは男だよ。つらいことがあっても、嫌なことがあっても、家族のためにがんばってきたんだ。
- ③ あなたのお陰よ。じゃあ、家事や育児は評価され

「共働き世帯」と「夫が有業で妻が無業の世帯」を比べると、日本では家事時間を含め、夫の生活時間は「共働き世帯」も「夫が有業で妻が無業の世帯」もほぼ等しく、夫は妻の働き方によって生活スタイルを変えないことがわかります。



てるかしら。子育ての責任の重さにつぶされそうになるときもある。相談相手もなくひとりりで悩んでいる若いお母さんも多いようだし。お互いに支えあえるといいのに。

① 仕事も家庭も男女で分担するようになれば、男性も仕事中心から、地域や家庭のこともごく自然にできてくるってことだね。

① 世の中は変わってきたし、頭ではわかっているつもりだけど、なかなか行動が追いつかない。周りの目もあるね。

② まず自分たちから始めなきゃ。

③ そうだね。そうすればもっと世の中も変わっていくよ。

### 女と男が平等であるためには？

日本国憲法では男女平等と基本的人権が謳われています。ではいま男女平等が、基本的人権が守られているかと問われれば否と答えざるを得ません。

経済的にも文化的にも日本では男性優位の慣習が長く続いてきました。そのひずみによって、さまざまな問題が出てきています。それを女性の視点も入れて考えてみれば新しい方向が見えてくるのではないかと期待されています。

生物学的に言えばヒトには男性と女性がいる肉体的には違うことは事実ですが、違うからといって一方が優れているとか劣っているということではありません。男女が平等であるということは、女性が男性と同じことをすると、男性が女性化することではありません。男女はそれぞれ特性があるから、それに従って一律に役割を分担すればよいということでもないので。

ヒトはそれぞれ一人ひとり個性があります。いわゆる男らしい男もいれば、やさしい男もしとやかな女も、そして元気な女もいます。男でも、女でも、一人ひとりをありのまま認め、それぞれ自分らしい生き方ができる社会にする必要があるのです。



### 我孫子 男の井戸端サロン

代表 日比野 晃三さん  
 「定年後の熟年男性が、“会社人間から地域人間に”を合言葉に、地域での仲間づくりをしています。また、自立のための生活講座や、地域でのボランティアも計画しています。」



ふれあい工房を視察

# かがやく個性たち ②

村樫尚子さん（我孫子市選挙管理委員会委員）

女性としては初めてですが、仕事の印象は？  
 この仕事は、ふだん選挙人名簿の管理など地味ですが大切な仕事です。女性だからといってやりにくいことはなく、逆に、私の意見が新鮮に受け取られ、実現したこともあります。例えば、開票所で報道関係者に腕章をつけない人がいたので、委員会で指摘したら、すぐに改善されました。

また、酒々井町長選の公開討論会が開かれたことをきっかけにして、鎌ヶ谷市の公開討論会を全員で見学したということもありました。

今後の抱負と後輩へのエールを  
 これから税金を払う若い人達に、選挙にもっと関心を持ってほしいので、我孫子市でも公開討論会を開きたいですね。それから、自分の考え・意見を発言できる人、特に若い女性に委員になってほしいと思います。

明るい選挙推進協議会の副会長として、6年前から「白ばら新聞」を女性だけで編集したり、新成人の立会人制度を確立するなどユニークな試みを実行してこられた村樫さん、選挙管理委員としてもなにかアイデアをお持ちと推察しました。



## 農業の分野で 男女共同参画を目指して



年々農業の担い手として女性の役割が増えています。  
 市では、農業における男女共同参画をすすめるため家族経営協定締結等さまざまな事業を進めています。

去る7月30日、販売可能な技術を取得するため、「加工品技術講習会」を行いました。久寺家から布佐まで市内全域から出荷組合、直売グループ、JA湖北女性部等々50人が集まり、講習会の後グループ紹介や交流を行いました。

参加者からは、「“直売”できる技術を身につけたい」「他の地域でがんばっている人たちのいることがわかって心強く思った」などの感想が寄せられました。

今後は、経営参画を目指して「農業技術講習」や「パソコン教室」などを予定しています。

## ある日の編集会議から

男女共同参画都市宣言から1年が経過し、我孫子市も様々な施策を、着実に推進しています。  
 過日、福嶋市長と情報紙 かがやく 編集委員が懇談しました。

編集部：今回の女性職員募集(注)はたくさんの問合せがあったそうですね。  
 市長：大変な反響で、2人採用のところ、724人の応募がありました。  
 編集部：対象者を36歳から45歳としたのは？  
 市長：一般の職員募集は35歳までですが、今回は子育てのためにいったん職業を離れた人の復帰の例になればと思ったからです。それと一時期女性職員を採用しない時期があり、事務職の女性が男性に比べ極端に少ない状況があります。この格差を少しでも解消するということもあります。

編集部：ちょっとイジワル(?)な質問を。市だけでなく、ご家庭での共同参画の様子はいかがですか？  
 市長：この仕事では、仕事と家庭の区別がつきにくくて...(苦笑)  
 編集部：市長の“家庭内業務の経験度”はいかがでしょう？  
 市長：男性も女性も生活スキルを高めることは必要なことですね。私も独身時代にずいぶん鍛えました。  
 編集部：スキルとともに意識も大切ですね。  
 市長：私の父母が教師で、家事・育児は早く帰る父が主に分担している様子を見て育ちました。家庭の内外の仕事は、男も女も同等にするものだという自然な感想を持っています。  
 編集部：本当にそうですね。

(注)市では、今年度の職員募集で、36歳から45歳までで職業経験のある女性を募集しました。



市の男女共同参画プラン推進本部の本部長でもある市長との懇談では、市長のご家庭でのお話が印象的でした。父親との密接な関係は、子育て中のお父さんたちにぜひお聞かせしたい内容でした。  
 11月30日開催する「あびこ男女共同参画フェスタ2002」が成功して、我孫子市の男女平等がさらに推進することを期待したいですね。

発行：我孫子市  
 発行日：平成14年9月20日 Vol.13  
 編集：『かがやく』編集委員会  
 〒270-1192 我孫子市我孫子1858番地  
 我孫子市環境生活部 男女共同参画担当  
 TEL.04-7185-1111

この情報紙は再生紙(古紙配合率100%)を使用しています。